事務事業チェックシート

事務事業No　12243　　事業名　**第一特別展開催事業**

［長期総合計画］

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政　策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施　策	3	文化財の保護・活用
取組方針	2	文化財の活用

［事業基本情報］

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	文化スポーツ費		
	目	博物館費		
	大事業	博物館事業		
	中事業	第一特別展開催事業		

事業種別	継続	関連個別計画			
事業年度	無し　～　無し	担当課・担当課長・Tel	博物館	近藤　壮	423-0003
事業実施の根拠法令	博物館法・文化財保護法・和歌山市立博物館条例	関連課			

1　事業内容

	（「誰・何」をどういう状態にするための事業か）	全体事業概要
事業目的	和歌山市の歴史や文化について、毎年テーマを決めて国宝・重要文化財級の良質な資料を全国から集めて展示することによって、市民に第一級の美術品や実物資料を目にしていただく機会を提供し、教育・文化の向上に役立てる。	地域に密着したテーマや和歌山に関連する全国的に有名なテーマを選び出し、展覧会を開催することによって、市民の教育・文化の向上に役立てる。

事業内容	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
	江戸時代の城下町和歌山で活躍した絵師たちの作品と関係資料を展示し活動の一端を紹介する。	大政奉還から150年を迎えるのを記念して、激動の幕末に活躍した紀州藩出身の徳川家茂や陸奥宗光、新選組隊士矢田賢之助などに関する資料を展示し、その活躍の一端を紹介する。	紀州徳川家15代・徳川頼倫が創設した我が国初の私設図書館「南葵文庫」の公開から110年を記念して、「お殿様の宝箱―南葵文庫と紀州徳川家伝来の美術」をテーマに南葵文庫と紀州徳川家に伝来した美術品を紹介紹介する。	紀州徳川家入国400年を記念して「徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝」をテーマに紀州徳川家初代・徳川頼宣やゆかりの人物の資料、頼宣ゆかりの寺社の宝物などを紹介する。	

2　事業コスト

事業費等（千円）		平成28年度 当初予算	平成28年度 決算	平成29年度 当初予算	平成29年度 決算	平成30年度 当初予算	平成30年度 決算	平成31年度 当初予算	平成31年度 決算	令和02年度 計画	令和02年度 決算
事業費		4,558	4,195	4,180	4,498	4,173	4,531	4,143	0	4,143	0
伸び率（%）		△8%	△0.1%	△8.3%	7.2%	△0.2%	0.7%	△0.7%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	5,485	5,644	5,663	4,068	4,636	2,478	3,277	0	3,277	0
	正規職員以外	885	778	725	949	695	204	424	0	424	0
	小計	6,370	6,422	6,388	5,017	5,331	2,682	3,701	0	3,701	0
国庫支出金		0	0	0	0	2,086	1,352	1,890	0	1,890	0
県支出金		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市　債		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他		906	850	850	533	850	885	850	0	850	0
一般財源（税等）		3,652	3,345	3,330	3,965	1,237	2,294	1,403	0	1,403	0
所要人数（人）	正規職員	0.69	0.71	0.71	0.51	0.58	0.31	0.41	0.00	0.41	0.00
	正規職員以外	0.33	0.29	0.29	0.38	0.28	0.10	0.24	0.00	0.24	0.00
主な予算内訳		展示資料の美術梱包委託料1,962千円・展示図録等の印刷製本費1,721千円等									

3　目標及び実績

	指標名	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
活動指標	第一特別展開館日数	日	目標値	32	32	32	32	32
			実績値	27	27	32		
			達成度(%)	84.3%	84.3%	100%	0%	%
			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					
成果指標	第一特別展入館者数	人	目標値	2200	2200	2200	2200	2200
			実績値	2398	2424	3594		
			達成度(%)	109%	110%	163.4%	0%	%
			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4　事業の評価

評価基準						
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい		減少している
[妥当性]事業手段は妥当か		現行の手段でよい	○	一部見直しが必要		見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能		市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む		緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない		できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している（90%以上）	○	おおむね達成（70～90%未満）		達成していない（70%未満）
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある		貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある		できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない		見直しが必要

5　今後の方向性（担当課評価）

事業内容の方向性	ゼロ	縮小	現状維持	拡大
充実				
現状維持			○	
縮小				
廃止				

コスト投入の方向性

担当課評価の根拠	博物館のメイン事業あり、開館以来継続してきた事業である。市民からの期待度も大きく、入館者数も増加している。市民の教育・文化への向上のため、当事業は、博物館として最も重要な事業として位置付けており、今後も少なくとも現状維持、あるいはそれ以上の成果を目指して取り組んでゆくべきである。
見直し・改善内容	特別展を担当する学芸員が不足している。ここ数年学芸員が相次いで退職し、館長をのぞく正規の学芸員が２人のみとなっているため、今後の特別展計画が立てられない状況である。早急に学芸員を増員すべきである。また、今後、市民のニーズを的確にとらえ、展覧会のテーマ設定に反映させるようにするべきである。